2027（令和 9）年度

選択の手引

学 習 院 高 等 科

選択を考えるにあたり

学習院高等科
科長　髙城彰吾

選ぶ、という行為は楽しいものです。それは、これから何かが始まることを意味するからでしょうか。選択肢を示されたとき、戸惑うのは何故でしょう。それはそのことによって何が決まるのかが分からないからかもしれません。未来への期待と不安。それに立ち向かうには充分な準備と少しの勇気が必要です。

学習院高等科のカリキュラムでは、社会人に求められる基礎的知識と身につけておくべき教養を学ぶ必修科目が充実しているとともに、より専門的な学びを深める選択科目が豊富に設けられています。選択科目の履修は２年生から始まり、３年生ではさらに多くの科目が選択できます。幅の広さ、履修内容の深さ、組み合わせの自由さが大きな特長となっていて、文科系・理科系という区分けについても、そのどちらかを選ぶことによって科目選択が制限されてしまうようないわゆるコース制ではなく、個人の適性や興味関心に従って、各自の時間割を作ることができる仕組みになっています。高等科でいろいろな分野を学ぶ中から将来の専門を考えていくこともできるし、大学で専門的に学ぼうとしている分野を意識してその基礎となる科目を選ぶこともできます。さらには将来の専門とは異なる科目を敢えて選び、大学で学べないような教養を高等科のうちに深めることもできるでしょう。

選択科目というと、「必修と比べて力を入れなくても大丈夫」というように思っているかもしれません。また「友だちと同じものを選択しておけば何とかなるだろう」と安易に考える人もときどきいます。が、これらが完全な勘違いであることは実際に授業が始まってみればすぐに気づくでしょう。そういう感覚で選択を捉えるのは、後悔あって一利なし。人生の大損失です。友だちと同じことを勉強すれば良かったのは今日までのこと。これからは君たち一人ひとりに異なる人生が待っています。成長過程にある君たちは、適性・興味関心・将来の志望について、自分自身を見極め始める時期にあるのです。

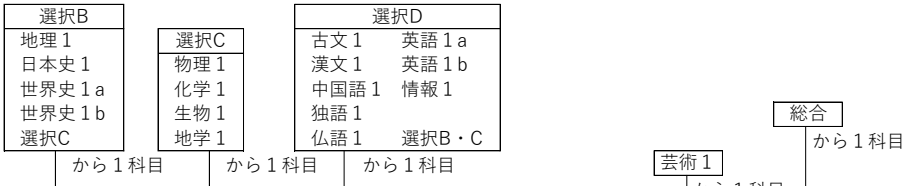
選ぶ主体は誰より君たち生徒諸君です。自分が選び自分が学び考える、という段階があって経験・知識は自分の一部となります。この機会は「自分の人生は自分が決める」という一生モノの心構えにつながるのではないでしょうか。この選択が君たちの将来を支えるものとなることを期待します。

学習院高等科　教育課程

［1年］

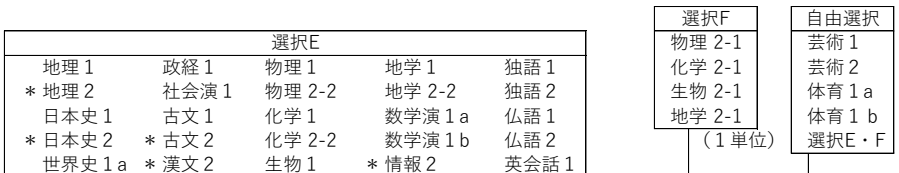
現代の国語	言語文化	世界史・総合	地理総合	数学共通	数学β	物理	化学	生物	地学	保健	体育	英語１	英語論理表現１ EC		家庭	情報	HR	計 34
2	2	3	2	3	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1	2	3	2	1	2	2	1	（単位）

［2年］



現代文	古文・漢文		日本史	公共	数学α / 数学β	必修選択 数学１	必修選択 理科1	必修選択	保健	体育	英語２	英語論理表現２	芸術１	総合	HR	計 35
2	2	2	3	2	3	2	2	2	1	3	3	2	2	3	1	（単位）

［3年］



現代文	古文・漢文		倫理	数学α / 数学β	必修選択 数学２	必修選択 数学２	英語３ 英語必修選択		英語論理表現３ EC		必修選択	体育	HR	計 30	計 31	計 32	計 33	計 34	計 35	計 36
3	2	1	2	4	2	2	2	2	2	1	2	4	1							（単位）

物理２・化学2・生物２・地学２　は選択E・Fで３単位を同時に履修しなければならない

＊：同じ科目の１を履修していなくても選択できる科目

◇数学の選択について◇

・数学は 2 年・3 年次において、αコース・βコースのいずれかを選択しなくてはならない。

〈αコース〉 卒業までに、数学I・数学Ⅱ・数学 A・数学 B を学ぶ。

〈βコース〉 卒業までに、数学I・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学 A・数学 B・数学 C を学ぶ。

・原則として 3 年次におけるコースは、以下のような選び方となる。

2 年　　3 年

αコース ⟶ αコース （α1 クラス）

βコース ⟶ αコース （α2 クラス）

　　⟶ βコース

◇英語必修選択について(3 年次)◇

・自分の英語力にあった講座を選択すること。英語の成績が高い生徒が、基礎レベルの講座を履修することは認めない。

・人数調整の際、履修希望者の 2 年次 1・2 学期の英語の成績を考慮に入れる場合がある。

◇科目選択上の制約について◇

・基本的には、選択科目の1を履修済みの者だけが、同じ科目の2を選択できる。

（例:書道2は書道1を履修済みでないと選択できない。）

・ただし、以下の科目については、1を履修していなくても2を選択できる(前頁図の＊印)。

地理2、日本史2、古文2、漢文2、情報2、英語 2b

・以下の科目については、1と2を同時に選択できる。

地理1・地理2、日本史1・日本史2、古文1・古文2

・a と b のついた科目:

数学演習・英語・体育の 1a と 1b は同時に選択できない。

世界史 1a と 1b は 3 年次のみ同時に選択できるが、2 年次には同時に選択できない。

・2 年次に履修した科目は、3 年次に再び選択することはできない。

（例:2 年で書道1を履修していた場合、3 年で再び書道1を選択することはできない。）

・コマの都合上、3 年次に数学2と物理1、数学2と化学1を同時に選択することはできない。

◇一部科目の定員について◇

・英語必修選択、芸術1、総合、体育 1a、体育 1b、小論文1，英語1a、情報 1、情報 2、倫理1には定員があり、抽選となる場合もあるので注意すること。

・芸術1の定員についてはシラバスを参照のこと。3年生の芸術1の履修については、2年生の履修を優先するため、空きがある場合のみ可能とする。

◇人数調整について◇

・2 つの曜日に開講されている科目については、授業毎の受講者数のバランスを取るために各自が選択した曜日からもう一方の曜日に移動してもらうことがある。

・選択者が極端に少なかった場合には、授業が開講されないこともある。この場合は、選択者に改めて選択を考えなおしてもらうことになる。

・人数調整の抽選にもれた場合、選択科目全体を選び直すことができるが、すでに第一志望の人たちで人数枠が埋まっている授業を選ぶことはできない。

◇自由選択科目について◇

・3 年次で自由選択科目を放棄する場合は、新年度の 4 月末に放棄願の届出を行う。届出が許可された場合、履修が免除される。人数等の都合により放棄できないこともある。

◇学習院大学理学部へ進学を希望する場合について◇

・2・3 年で数学βコースを履修することに加えて、理科の履修を以下のように義務づける。

［物理学科］　「物理 1・物理 2」および「化学 1 または生物 1 または地学 1」。
［化学科］　「化学 1・化学 2」および「物理 1 または生物 1 または地学 1」。
［数学科］　「物理 1・物理 2」、「化学 1・化学 2」、「生物 1・生物 2」、「地学 1・地学 2」のうち、少なくともいずれか 1 組。
［生命科学科］　「物理 1・物理 2」、「化学 1・化学 2」、「生物 1・生物 2」のうち 2 組。

◇ 実力考査について◇

・3 年生を対象に、2 回（第 1 回＝9 月、第 2 回＝1 月）実施される。
・国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科で実施され、数学・社会・理科については科目を選択しなくてはならない。科目の選択は 6 月（第 1 回）、11 月（第 2 回）に行う。

選択科目
数学― 数学 A、数学 B
社会― ［倫理または政経］、地理、世界史、日本史
理科― ［物理 A または物理 B］、［化学 A または化学 B］、［生物 A または生物 B］、［地学 A または地学 B］

・理科・社会の選択パターンは、次のいずれかとなる。

社会 1 科目＋理科 2 科目
社会 2 科目＋理科 1 科目
（注意）　社会は、倫理と政経を同時に選択することはできない。
理科は、同じ科目の A と B を同時に選択することはできない。
例えば、物理 A と物理 B を同時に選択することはできない。

・学習院大学理学部志望者には、［数学 B］を選択することに加えて、理科の選択を以下のように義務づける。

物理学科　［物理 B］および［化学 A、化学 B、生物 A、生物 B、地学 A、地学 B の中から 1 科目］
化学科　［化学 B］および［物理 A、物理 B、生物 A、生物 B、地学 A、地学 B の中から 1 科目］
数学科　［物理 B、化学 B、生物 B、地学 B の中から少なくとも 1 科目］
生命科学科　［物理 B、化学 B、生物 B の中から 2 科目］

新２年生

◇ 選択科目ガイド（２年） ◇

数学

☆数学1

β選択者を対象に、この科目と必修 3 時間を合わせた 5 時間で、数学Ⅱと数学B（数列、確率と統計的推測）、数学 C（ベクトル）を学習する。時間が許せば、数学Ⅲの一部を先取りする。3 年次の授業でより発展的な内容につなげていく予定である。

選択B

☆地理1

世界の産業（農業・工業）に関する系統的な学習と世界地誌について、教科書「地理探求」および図説資料集を中心に、地図帳、新聞資料、統計書、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注） 3 年次で地理2の受講を予定している者は2年次に地理1を受講するのが望ましい。

☆日本史1

原始・古代と中世を対象とする。すなわち旧石器時代から戦国時代までをあつかう。必修日本史では近世と近代・現代に重点を置いており、それ以前の古い時代には軽くしか触れられない。そこを補うためにもうけられた選択科目である。講義は脇役で、テキストの要約と論述問題の解答が主役である。

☆世界史 1a

選択世界史（1a/1b）では、1 年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史 1a では、そのなかでも特に東洋史を扱うこととする。（中国史及びアジア近代史）

☆世界史 1b

選択世界史（1a/1b）では、1 年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史 1b では、そのなかでも特に西洋史（前近代のイスラム史を含む）を扱うこととする。

選択C

☆物理1

1 年生の必修物理で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱」、「波」、「電気」を中心に扱う。演示実験を行うので、考察していきたい。

☆化学1

教科課程における「化学基礎」のうち、1 年次の残りと、「化学」の一部を学ぶ。

「酸化還元反応」、酸化還元反応のひとつとして「電池や電気分解のしくみ」、「無機化学」、「有機化学」を学ぶ。無機化学では覚える内容が多く、有機化学では覚えたうえでの新しい概念の構築が必要となる。

全般を通して理論だけにおさまらない事実に学ぶ。そのため実験は多く、実験と座学を結びつけて考えていく必要がある。1年次の内容の上に立つカリキュラムである。随時内容を振り返るが、必修化学が振るわなかった者には努力をしてもらわないと厳しいものになる。

使用テキスト） 化学基礎、化学、ニューグローバル 化学＋化学基礎

☆生物1

1年生における既習事項を基礎にして、DNA とタンパク質、呼吸や光合成等の代謝、DNA の働きと発生、人体のしくみ、植物のしくみ、生態と環境、生物進化などを映像などを交えながら学習する。「生物」の教科書と図説、セミナー生物を用いる。レポートと試験で評価する予定である。文系の者でも十分理解できる内容を授業展開する。文系希望者に加え、医歯薬系や生命系、理系進学希望者はぜひ生物 1 を履修してもらいたい。

☆地学1

1年生における内容をふまえて学習を進める。「地学基礎」に加え、「地学」の学習事項も扱う。主に気象分野(「地学基礎」と「地学」の内容)と、天文分野(「地学」の内容)を講義する予定である。

選択D

☆古文1

古文の読解力を鍛え、読むことの深みを知る。授業において、受け身で現代語訳をノートするだけでは読解力は身につかない。自ら辞書・文法書を駆使して原文に向き合い、どう読み、どう訳すのかを悩む時間の積み重ねが力となる。授業では、学生に一定の範囲を割り当て、その読解の結果を発表してもらい、それに対して討論し、訂正していくことを積み重ねていく。古語辞典を用意してもらうことになる(授業時に指示)。

☆漢文1

日本の文化にも大きな影響を与えた中国の古典文化を理解するため、文学・歴史・思想にわたる様々な作品を読んでいく。必修と同時スタートとなるので、履修に当たっての予備知識は必要ない。漢和辞典を用意してもらうことになる(授業時に指示)。

☆中国語1

発音の基礎、日常会話、基本的な文法、簡単な作文ができるレベルまでを目標とする。授業を通して最新の中国の事情、さまざまな文化を紹介する。

☆ドイツ語1

ドイツ語に関する基礎知識を学び、それをもとにした情報の受信・発信能力の基礎を習得することを目的とする。英語等との比較も行いつつ、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」ことについての基礎的・実践的トレーニングを行なう。時間に余裕があればドイツ語圏の文化・社会事情も扱いたい。総合のドイツ語と併せての履修も効果的。

☆フランス語1

初心者が無理なく学習できることを目指す。文法を学ぶだけではなく、何回もフランス語を目にし、耳にすることで徐々にフランス語の文字や発音に慣れていけるようにする。さらに簡単な挨拶や自己紹介など日常会話に役立つ表現も紹介していく。語学用教科書やコピーを用いる予定。

☆英語 1a

本授業は、英語多読を行うことによって読みの持久力を養成することを目的にする。英国の小学校において人気の高い絵本のようなものから始め、英語力に不安を感じる人にとっても無理なくたくさん読めるようにする。一年間の終わりごろには、英語の本を楽しく読めるくらいにまでなることを目標に掲げたい。

授業は、図書館所蔵の 3,000 冊以上の Leveled Readers や Graded Readers などの難易度がコントロールされている英語の読み物から好きな本を借りて読む。読んだあとは、かんた

んな要約と気に入った一文とその理由を Book report に書いて提出したり口頭発表を行う。
第2学期からはショートムービー作成にも挑戦する予定。

☆英語 1b

Beginner to intermediate level English students will improve their vocabulary, grammar, reading and writing skills.

☆情報1

1 年必修「情報」の学習内容を発展させ、応用的なプログラミングを学習します。
プログラミングを学ぶことにより、コンピュータを使って何かを生み出すというクリエイティブな活動を行うことができるようになります。
また、様々なプログラムを設計し、自分の意図した通りに動くように修正するプロセスを通して、物事の手順を自ら考え、構造化する能力を身につけることも授業の目標です。
学期末課題に取り組むために、スマホではなく自宅にパソコンの作業環境があることが望ましいです。

芸術1

☆芸術1

○書道1　定員:60 名

書道1では、漢字の各書体の変遷を中国や日本の名跡から学ぶ。また、仮名の学習では平安時代の古筆を学ぶ。授業では墨汁は使わず磨墨をし、用具・用材は高校生に相応しいものを使用する(初回授業にて指示)。

○音楽1　定員:35 名

本授業では、弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)のいずれかを選択して合奏を学ぶことができます。さらに今年度からは、自分の管楽器を持参できる生徒も履修が可能となり、より幅広いアンサンブルを体験できるようになりました。
弦楽器については、基礎を学ぶ事ができ、未経験者も歓迎しています。必要に応じて学校備品の楽器を貸与します。(履修人数によっては、1 台を複数人で使用する場合もあります。)また、音楽鑑賞や歌唱の活動にも取り組みます。演奏実技にとどまらず、音楽を聴き取り、考え、表現する力を多角的に育成していきます。

○日本画1　定員:64 名

野菜、花、剥製などをモティーフにした静物画を制作する。岩絵の具と顔彩と色紙を用いて、基礎的な日本画の技法を習得する。

○西洋画1　定員:30 名

油絵具の素材についてや、使い方について学び、数点の油彩画を制作する。鑑賞活動として美術館見学や映画鑑賞などを行う場合もある。

○工芸1　定員:30 名

工芸では木材や金属等の実材の加工、デザインを通じ、素材について学び、自ら設計・デザイン、制作を行い、ものをつくることについて学ぶ。
工芸1では、基本的な素材の加工方法、設計・デザインなどを行う。

総合

☆総合

○能楽を観る・知る・体験する

日本の古典芸能には、歌舞伎や能、狂言などさまざまありますが、なかでも能は敷居が高く、難解に思われるかもしれません。ですが、少しでも扉を開いてみると、いろいろな点が見えてきて、見えてくると面白くなってくる芸術です。この授業では高等科の卒業生の能楽師を講師にお招きします。直接能楽師から謡や舞などを教えていただく機会はなかなかありません。高等科生であるメリットを生かして、能の世界を体験してみましょう。実際に能舞台で練習してみたり、能楽を鑑賞したりしたいと思います。

○演劇入門

スマホやゲームなどのデジタルメディアが普及した現在では、わざわざ劇場に足を運ばなければ見ることのできない演劇は、時代遅れのメディアのように思えるかもしれない。たしかに、デジタルメディアによりわれわれの生活は大きな変容を遂げた。だれもが簡単に情報を発信でき、またその情報をいつでもどこでも再生し、誰かと共有できるようになった。しかし、変容したのはメディア環境の方であって、人の営み自体は、実は太古の昔からそれほど変わっていないのかもしれない。

演劇は、特定の時間と空間を共有する見る側（＝観客）と見られる側（＝演者）の緊張関係を前提としている。そして、同じことを二度とは体験できないという一回性が演劇の魅力の源泉である。おそらく人は文字を発明するよりも前から、この演劇のもつ緊張関係や一回性に魅了され、演劇的な行為を見たり行ったりしてきた。

この授業では、見る側と見られる側の両方から、演劇という古くて新しいメディアにアプローチする。見る側としては、映像資料を使って過去の公演を鑑賞する。見られる側としては、演劇の公演を企画したり映像作品・ラジオドラマなどの創作を行うことで、表現することの面白さを体験してほしい。

授業への参加度、レポートなどで総合的に評価する。

○通史でない世界史：食と動物からみた社会史

この授業では今までみなさんが歴史の授業で学んできたことをもとに、今までみなさんが歴史の授業で学んできたやり方とは違う方法で歴史を学んでいきます。

例えば、古いほうから順番に時代をおって世界の歴史をみてゆく「通史」というかたちではなく、時代や場所やテーマを限定した「テーマ史」というかたちで歴史と向き合ってみます。また、授業の中であたえられる歴史に関する知識をただただキャッチするだけではなく、自分自身で情報を解釈し、「過去の世界はこのような世界ではなかったのか」という自分なりの「歴史像」をつくりあげることに挑んでみます。

今回とりあげるのは「食と動物からみた社会史」というテーマです。人類の長い歴史の中で食べることや動物と関わることなどの日常的な営みはずっとあったはずなのに、教科書で正面から扱われることはあまりありませんでした。史料集や参考書には出てこない素材も用意しますので、この機会にちょっと違った角度から歴史をとらえなおしてみませんか。状況が許せば体験的な学習の機会も用意する予定です。日常生活史に関わるテーマですから、ちょっとした理科の知識を借りることもあるでしょう。あなたの「総合力」がものをいいます。

授業の最終目標は、食か動物の歴史について自分でテーマを選び、調べ、集めたものを読み、解釈を加え、レポートを完成させることです。

○暴力の倫理学

みなさんは「暴力」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？ニュースに流れる戦場での兵士や民間人の悲惨な死、教科書の中にあるホロコーストや原爆といったところでしょうか？それとも、いじめや教師による体罰、DV といったある意味で身近な出来事でしょうか？あるいは、差別や貧困や環境問題といった、社会のあり方が生みだす不幸（「構造的暴力」）でしょうか？いずれにせよ、あまりかかわりたくないものでしょうが、残念ながら私たちが生きる社会や人生が暴力と無関係に存立しえていないのが現実です。

この授業では、こうした事象に対してただ「暴力反対！」と叫ぶだけで終わるのではなく、「こうした暴力はそもそもなぜ悪いことなのか」、「暴力はなぜ生まれるのか」、そして「暴力とどのようにつきあってゆくべきなのか」、あるいは「暴力をどのように記憶し後世の人々に語り伝えてゆけばよいのか」といった、暴力をめぐる少し哲学的な問題を、具体的な例を取り上げながら参加者みんなで考えていきます。授業では、人類がどのように暴力を経験し、またそれを描いてきたか確認するために、広い意味での「暴力」を描いた映像もたくさん鑑賞します。また、暴力を法律の観点からとらえるために裁判傍聴や弁護士とのディスカッションを行います。

授業は、私 の 話 や みんなでの議論で構成します。みんなと話をするのが好きな人、人間や社会のあり方に興味のある人、なんだかわからないけどとりたい科目のない人、歓迎します。是非参加してみてください。＊授業の性質上、「暴力」を描いた表現と接する機会が多いので、選択の際は十分注意してください。

○博物館を知ろう

皆さんは「学芸員」という仕事について、聞いたことはありますか？博物館や美術館で働く専門家のことです。学芸員は様々な業務を担っており、史資料の収集や保管、調査・研究、展覧会の開催、教育普及など多岐にわたっています。実は学芸員は、専門的な知識や技術が豊富でなければこなせない仕事です。

この授業では、歴史系・美術系の博物館に勤める学芸員はどういった知識が必要であるのかを学びます。主に、絵巻、屏風、掛軸、仏像、刀剣、鎧甲冑、茶の湯道具などの美術・工芸品についての基礎知識を学んだうえで、実際に博物館や美術館へ行って展示を見学します。絵巻や掛軸、茶の湯道具については、実際に手にとって取り扱いを実習したり、絵巻の詞書（くずし字）を読んだりしていきたいと思います。また、フィールドワークや独自の展覧会（ミニ展示）を企画する予定です。座学中心の授業でなく、体験的授業で外部施設に行ったり、専門的な知識を学ぶことに関心ある人はぜひ参加して欲しいと思います。

○Critical Reading and Discussion

The aim of this class is to develop students’ English skills to a level where they will be useful in whatever field students pursue after high school. A variety of magazine and newspaper and internet articles on current topics will be used in class and students will develop their ability to think about the main issues and evidence in a critical way. Students will also have to present their views to the rest of the class and persuade any classmates who disagree with them using logical reasons and supports.

Term 1　Grades will be based on a class test and some presentations.

Term 2　Grades will be decided by a series of class discussions.

Term 3　Each student will write a Report.

○英語プレゼンテーション入門

この授業では、自分で設定したテーマについて、英語のプレゼンテーションに挑戦します。テーマは、“The History of Jazz”“What Makes Michael Jordan a Legend?”“The Best Horror Movie―My Recommendation”など、自分の興味や関心に基づいて選ぶことができます。Canva や PowerPoint を用いてスライドや動画を作成し、聞き手にわかりやすく伝える工夫についても学びます。

授業では、発表に役立つ英語表現や発音練習に加え、原稿作成の方法、効果的なプレゼンテーションの構成、聞き手を惹きつける発表技術についても学んでいきます。英語を話すことに苦手意識がある人でも、準備の仕方や発表のコツを身につけることで、自信をもって挑めるようになります。

英語のスピーキング力を高めるだけでなく、大学での学びにもつながる実践的な力を身につけたい人、自分の興味や考えを英語で発信したい人の参加を歓迎します。興味あるテーマについて調べ、知識を深めながら、英語を使ったプレゼンテーションを体験していきましょう。

○自動車産業の現在、過去、未来 ～History and Future of Automobiles～

我々にとって身近な乗り物である自動車は、いつどのようにして生まれたのか。自動車誕生の歴史から、各時代の社会におけるその役割、未来に向けての進歩を探ることをテーマとして授業を行います。書籍・雑誌やテレビ、インターネット、映画等も資料として、様々な角度から自動車について取り扱う予定です。

○国際協力入門

人・モノ・金・情報が非常に速いスピードで世界中を駆け巡る現代のグローバル時代ですが、当然ながらそこには私達が享受するメリットだけがあるわけではありません。人の移動については、文化の違いによる地域住民との摩擦、治安悪化、テロリズムなど、モノ・金の移動については、国内産業の衰退や収入格差、情報の移動については、サイバー攻撃、誤情報拡散、国際的なネットワークによる国境を越えた犯罪増加など、国内社会を不安定化する問題が世界各国では深刻化しています。こうした事態への反動として「反グローバル」「反外国人」が声高に叫ばれ、閉鎖的な外交政策、自国民重視・外国人への規制強化など、内向きの政治が人々に支持される例が世界でも日本でも如実に見られます。

一方で、現代の人々は「国」という枠組みだけに収められているわけではなく、「人種」「民族」「宗教」「ジェンダー」「職業」「趣味」など、個人レベルでは、インターネットなどを通して複数のカテゴリーで世界中の人達と繋がり、価値観を共有しています。国の枠組みと併せて、個々人の多様性が尊重され、それらの共存・共生が求められている時代でもあります。

この授業では SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）をキーワードに、こうした現代の世界ではどのような連帯が求められ、どうすればそれが実現可能なのかを考えていきます。世界をバランスある視点で捉え、多角的に見る訓練を通して、自分の持つ価値観を再認識し、行動を考えていくことが最終目標です。積極的な発言、参加、ディスカッションを中心に進めていきます。年間 5、6 回のレポート提出、学年末には 15 分程度のプレゼンテーションを行ってもらう予定です。

○ランドスケープアーキテクチャ入門

街で人が集まる外部空間は誰もが利用できる公共の財産ですが、その場所はランドスケープ・アーキテクトによって創り出されたものかもしれません。ランドスケープ・アーキテクチャとは、アメリカおよびイギリスにおいてランドスケープ・ガーデン（またはガーデン・デザイン）

から発展した、公園、広場、街路や庭園などの公共空間を研究・創造する学問であり、この分野の知識と技術を生かして公共空間を設計する職業人をランドスケープ・アーキテクトとよびます。主に都市における様々な外部空間を魅力的かつ機能的な場所にするデザインを行いますが、郊外や農村、山間部などのデザインにもポテンシャルがあります。この授業では、風景・景観、街並みなどのトピックとともに、庭園、公園、広場などの公共空間とそのデザインについて学んでいきます。また、生徒個人の関心と授業で得た知識をもとに各生徒が空間をデザインし、SketchUp(スケッチアップ)というアプリケーションを用いて3D モデルを作成します。授業ではほぼ毎回コンピューターを利用します。庭園訪問も予定しています。

○ハングルを学ぼう

韓国は日本の隣国であり、日本にとって最も関係の深い国の一つです。韓国は日本と類似点が多くみられると同時に相違点も多く、異文化理解を考える際、韓国ほど面白いテーマはありません。

この授業は、韓国語入門および韓国文化入門となります。韓国語はハングル文字の読み書きから始めて、1年後には韓国語による初歩的な表現・理解ができるようになることを目指します。韓国文化入門では、韓国の伝統文化・現代文化や韓国人の価値観・考え方などを考察していきます。また、韓国人の対日意識や日韓関係についても取り上げていく予定です。授業ではテーマに関する文献を読んだり映像を見たりしながら、受講者同士で活発な意見の交換をしてもらいたいと考えています。時には校外学習も予定しています。なお、各学期末には与えられたテーマに関する 2,000 字程度のレポートを提出してもらいます。

○フランス文化入門

日本で紹介されるフランスのイメージは、美食・ファッション・芸術・サッカーと言った紋切り型のものになりがちです。しかしフランスにはそれとは異なる興味深い面がまだまだたくさんあります。この授業はフランスの言語、歴史、地理、政治経済といった基礎知識はもちろん、映画やアニメといった普段あまり取り上げられない分野も紹介し、受講者がフランスに対する知識を深め、自発的にフランス文化について研究する手助けをすることを目的として進めます。また美術展見学やフランス料理を味わうなどの校外授業にも出かけたり、クレープを作るなど、実地の経験を通じてフランス文化に対する理解を深めることも予定しています。知っているようで知らない国フランスに少しでも興味・関心のある生徒はぜひ受講してください。

各学期とも、フランス文化あるいは日仏の文化比較についてのレポート提出 and/or 口頭発表をしてもらう予定です。

○声に出して覚えるドイツ語

日常的に用いられるドイツ語の表現を、まず声を出すところから始めて、ドイツ語を利用する際の基本的なノウハウを学習していく。初めて学習する人にも分かりやすいドイツ語のテキストを、読んだり聞いたりしつつ、ドイツ語で文を作ったり、声に出して話してみたり、といった実践的トレーニングを行なう。同時にドイツ語圏の文化的事情にもふれて行く予定。

ドイツ語やドイツ語圏の文化に興味がある人、これから何か新たに外国語をやってみたいという人大歓迎。選択のドイツ語と併せて履修することもでき、その場合は一層理解が深まるのでお勧め。ドイツに関する発表課題(日本語)を課す。

○生命科学　入門　―映像による、遺伝子科学・脳と心・人体・生命進化―

映像資料を用いて、DNA と遺伝子科学について、脳と心について、人体について、生命進化について学ぶ。生物が好きな人、医学生物学進学を考えている人、映像で生物学を易しく学びたい人にお薦めです。

21 世紀は、遺伝子科学の進歩とともに歩み始めている。遺伝子とは、何かとても複雑で、難しい印象を受けるものかもしれないが、映像を用いて、この世界を学んでみよう。

脳と心は、物質と電気信号による制御から成り立っている。心とはどのようなものからできているのか、映像を用いて一緒に考えていこう。ヒトの体は、どのような構造、しくみになっているのか、映像で詳しく見ていこう。

生命の進化は、地球の進化とともに進んできた。そのきっかけとなったさまざまな環境変化とは何だったのか。映像を用いて、自ら調べて、謎を解いてみよう。

博物館見学も国立科学博物館や日本科学未来館、水族館等、できる限り行う予定です。

○体脂肪を燃やそう

「食べなければ痩せる？」「筋トレをすると太りにくくなる？」「脂肪を効率よく燃やす運動とは？」

私たちの身の回りには、ダイエットやトレーニングに関するさまざまな情報があふれています。しかし、その中には科学的な根拠が十分でないものも少なくありません。本講座では、運動生理学や栄養学の観点から、体脂肪が蓄積・燃焼する仕組みや、筋肉量・基礎代謝・食事とエネルギー消費の関係について学びます。また、自分自身の身体や生活習慣を振り返り、健康的に体脂肪を減らすためには何が必要なのかを考えます。

さらに、ウェイトトレーニング、スピード、プライオメトリクス、バランストレーニングなどを実際に体験し、目的に応じた効果的なトレーニング方法を実践的に学びます。知識だけで終わらせず、「自分の身体で確かめる」ことを大切にする講座です。

【評価方法】

授業への参加態度、食事・トレーニング記録、レポートの提出内容等を総合的に評価します。

○写真を撮る・見る

いまやスマートフォンに触れるだけで撮れるようになった写真。そのことが却って 1 枚 1 枚の扱いをぞんざいにしているかもしれません。この授業ではより積極的に写真を「撮る（＝創る）」ことについて着目したいと思います。

前半ではカメラの操作と画面のコントロールとの関係を確認しながら撮影の経験を重ねます。また課題毎に互いの写真を見て講評し、ときに写真家の作品も鑑賞します。自分の写真も含めさまざまな写真を見て考えることが、写真への理解や自身の撮影にもつながるはずです。

学年末には、各自が定めた 1 つのテーマをもとに写真集を制作します。後半ではコンピュータ処理や写真の選び方／並べ方といった「編集」を通して、他者に何をどう伝えられるのか、実験を重ねます。同時に写真集の素材を撮影し、人に見せ、検討を受けて、また撮影してという作業を繰り返し、質の向上を目指します。

“考えながら撮る”ことを実践する中で、普段気づかないようなものごとの見方に気づいてくれることを期待しています。

※成績：出席、課題(主に宿題、年間 250 枚程度)の成果物、鳳櫻祭展示、写真集や写真展鑑賞の感想文などを総合的に評価します。

※授業にデジタルカメラ(できれば一眼)が必要なので、各自用意してください。

※PC を操作する場面が多々ありますが、それほど心配しないで下さい。

○ミステリーと数理論理学

ミステリーはしばしば「論理」的であるといわれます。この文脈における「論理」とは、トリックや暗号といったものが筋道立てて合理的に説明されることを指すのがほとんどであり、論理学における「狭義の論理」とは趣を異にするものです。しかし一方で、共通項がないわけで

は決してありません。例えば、名探偵による推理や推論の正当性を定式化するためには「狭義の論理」が必要です。読者を納得させる良質な作品ほど、そうした厳密性を自然な形で内包しているのです。

本講座では、数理論理学（記号論理学）の基礎を学び、新たな視点からミステリーを分析するとともに、それによって得た知識を生かして、パズルや小説などの創作、鑑賞、輪読等を行う予定です。

○一杯の茶から見える世界と日本と私たち

お茶は地形や土壌、気候などの自然環境の影響を強く受けて育ちます。そして、海と陸の交易ルートを経て世界中に広がり、それぞれの地域における歴史や文化、社会、人々の生活や心と融合して独自の茶文化が育まれました。

この講座では、世界各地のローカルな地理的事象（自然環境、歴史・文化、社会）から、シルクロード、大航海時代、植民地などのグローバルヒストリー、そして 21 世紀の気候変動やサステナビリティ、多文化理解・共生まで、あらゆる角度からお茶を丸ごと学びます。お茶に関する地理や歴史などの座学に加え、お茶の生産・加工現場などへの巡検、資料館や各国の大使館訪問、お茶会への参加・開催などを予定しています。

○オーケストラの科学

紀元前6世紀にピタゴラスが音階を発明して以降、もしくはそれよりずっと前から、人々の生活に音楽は広く深く根ざしていた。音楽の中でもとりわけオーケストラ音楽は、芸術の一種として鑑賞者の心情に強く訴えかけるものがある一方で、実は数学的・科学的に緻密な原理の上で成り立っている。オーケストラで用いられる楽器の性質や音楽のメカニズムについて学ぶことが本授業の目的の一つである。

またクラシック音楽はただ漫然と聴くだけでなく、作曲者の生い立ちや作曲の経緯、地域の気候や風土、宗教観を知ることで、より深く楽しむことができるようになる。オーケストラやクラシック音楽の鑑賞の姿勢についても取り扱う予定である。

この授業で扱う音楽ジャンルは専らオーケストラに係るもの、主にクラシック曲である。昨今のポップスやアイドルソングなどについては基本扱わないので注意してほしい。また楽器経験は不問ではあるが、楽譜が多少読めることや、鍵盤の位置を理解していることは前提で授業を進める予定である。予定が合えば、学内外のオーケストラ演奏会に足を運ぶことも検討している。適宜、レポート課題を課す予定である。

新３年生

◇ 選択科目ガイド（３年） ◇

英語必修選択

以下の講座から第1希望～第3希望を選んでください。

自分の英語力にあった講座を選択すること。英語の成績が高い生徒が、基礎レベルの講座を履修することは認めません。また、第1志望が通るとは限りません。人数調整の際、履修希望者の２年次1・2学期の英語の成績を考慮に入れる場合があります。

☆英語必修選択

○Advanced English （上級）

This class is aimed at students who are considering studying at an overseas university or the international department of a Japanese university. It would also suit students who plan to use English in their future career. Newspaper articles and high-level materials will be used. There will not be an end of term exam but students will be expected to write reports and take part in class discussions.

○時事英語演習（中上級）

国内外のニュース、評論、話題となっていること等を英語で学びます。語学学習者向けではない英字新聞、インターネット上の記事・HP、YouTube 動画等を教材として用いる予定です。正確に英語文献や英語報道の内容を理解したり、正確な文法の英語を書いたり話したりすることを目指すわけではありません。あくまで概要を理解し、自身の考えを英語で発信する訓練の場としたいと考えています。これまでの英語の試験の点数は問いませんが、積極的に発言する姿勢を重視します。

○英語ディベートレッスン（中上級）

基礎からステップアップして最終的には本格的なディベートに挑戦する体験型授業です。この授業では、社会問題のリサーチと主張や反論の組み立てを通じて、高度な読解力や語彙力、論理的なライティング力や説得力のあるプレゼンスキルといった「総合的な英語力」をバランスよく鍛えることを狙いとしています。勝敗が決まるゲームとしての面白さを楽しみながら、自分とは異なる他者の考え方に触れることで、英語力だけでなく論理的思考力や広い視野を同時に養うことができます。英検２級程度以上の力をさらに伸ばしたい人や、社会的なテーマについて英語で意見を交わしてみたい人、そして大学進学後を見据えて自分の言葉で人を説得する力を身につけたい人などを対象として考えています。

○Speaking Workshop （中級）

せっかく英語を学んでいながら、人前で英語を話すのが苦手と感じている人もいるかもしれません。発表のスキルを学び、練習を積むことで、英語のスピーキングを上手にこなす力を獲得していきましょう。この授業では、英語の文章構成や原稿準備の仕方、発表のコツなどを学びながら、英語で原稿を作成し、発表していきます。スティーブ・ジョブズやバラク・オバマなど著名人のスピーチ映像から学んだり、英語のリズム、発音練習もしていきます。テーマは“What I Would Like to Study at University”あるいは“The Strength of Shohei Ohtani”“To Become the World's No.1 Game Creator”“The Difference in Tastes of Instant Noodles”など、自分の関心のあることについて発表することもできます。必要に応じて図書室等で資料を調べながら、自分の考えを整理し、それを英語でわかりやすく伝える

力を養います。大学での学びにもつながる論理的思考力、表現力、発信力を身につけ、英語のスピーキングに自信をつけていきましょう。

○Listening Workshop （中級）

この講座は、英語のリスニング能力を向上させたい学習者を対象としています。単なる聞き流しではなく、能動的なリスニングトレーニングを通じて、リスニングスキルを向上させることを目指します。講座では、聞いた音声の内容理解にとどまらず、その英語を自分自身で使えるようになることを目標にトレーニングを行います。英語学習用テキストばかりでなく、ニュース、インタビュー、スピーチなど、リアルなコンテンツも扱う予定です。トレーニングを通じてリスニングの自信をつけ、自ら積極的に英語を聞き続ける力を身につけましょう。

○Writing Workshop （中級）

日常の身近な事柄から時事問題までを題材とし、英語で自分の意見を表現する力を身につけます。様々な英語の表現や論理の展開方法を学び、それらの定着を図ります。英語、日本語に限らず「書く」力は、多く経験を積むことによってしか得ることができません。この授業は、その１つのきっかけとなることを目指しています。

○Learning the History of Sports in English （中級）

各種スポーツの歴史やスポーツ選手について英文を通して学ぶことをテーマとします。長文読解でこれまでに学んできた英文法の確認も行います。また、グループや個人でプレゼンテーション（発表）を行う機会も設ける予定です。

○映画で英語学習入門（中級）

英語圏で作られた映画やドラマを日本語の字幕・音声を介さずに英語のまま楽しむことは、実践的な英語力を身につけたいと願う人々にとっては憧れであり、目指すべき高みであると言えるでしょう。映画を英語で視聴することは、英語圏の人々の考えかたや発想をダイレクトに知る機会でもあります（翻訳の都合で失われる意味も多いのです）。

この授業では字幕データを学習しやすく編集した教材を用い、意味調べ、内容理解、音読（ロールプレイ）、要約などの活動を行います。映画を楽しみながらリアルな英語に触れ、辞書を片手に地道に言葉に取り組む学習を行います。

○英語多読・多視聴演習 （全レベル）

この授業では、たくさんの英語を読み、視聴して、英語力の素地を鍛えます。多読の蔵書も英語学習に役立つサイトも自分で選ぶことができます。自分の英語力と関心に合わせた教材を選び、自律的な英語学習の習慣が身につけることもこの授業の主要な目的の一つです。特定の教科書を用いず、図書室にある英語多読蔵書を読み、インターネット上にある英語学習に役立つサイトを視聴して、授業ではその報告やディスカッションを行います。

○英語基礎（基礎）

英語に苦手意識がある人や、日々の授業が難しいと感じている生徒向けの授業です。英語が苦手になる原因の多くは基礎のあやふやさにあり、感覚頼みになってしまっていることにあります。 この授業では、中学校や高校１年生レベルの英文法・基礎構文の最重要ポイントまで立ち返り、基礎的な語彙も同時に学び直します。「わかる楽しさ」を体感しながら地盤を固め直していきましょう。

数学

☆数学2

β選択者を対象に、数学Ⅲと数学Cを必修4時間とこの選択科目4時間の合計8時間で学ぶ。この8時間の中で、関数の極限や連続性を調べ、微分・積分の対象を分数・三角・指数・対数関数にまで広げる。また、ベクトル、複素数平面、2次曲線について学習する。

2学期後半にこれまで学んだ高校数学全般の総合演習も行う。

選択Eおよび選択F

☆地理1

世界の産業(農業・工業)に関する系統的な学習と世界地誌について、教科書「地理探求」および図説資料集を中心に、地図帳、新聞資料、統計書、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注) 3年次で地理2を受講する者は地理1を並行して受講するのが望ましい。

☆地理2

世界の人口・食料問題、都市・居住問題、人種・民族問題、地球環境問題、南北問題などについて、教科書「地理探求」および図説資料集を中心に、地図帳、統計資料、新聞資料、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注) 地理1を受講したものが履修することが望ましい。

☆日本史1

原始・古代と中世を対象とする。すなわち旧石器時代から戦国時代までをあつかう。必修日本史では近世と近代・現代に重点を置いており、それ以前の古い時代には軽くしか触れられない。そこを補うためにもうけられた選択科目である。

講義は脇役で、テキストの要約と論述問題の解答が主役である。

☆日本史2

史料講読を中心に行う。主に近現代史を取り上げるが、前近代の文献史料も扱っていく。講義は脇役で、テキストの要約と小論文の作成が主である。なお、原則的に 2 年次に日本史1を既に受講しているか、3年次で日本史1をあわせて受講することがのぞましい。

☆世界史 1a

選択世界史(1a/1b)では、1年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史 1a では、そのなかでも特に東洋史を扱うこととする。(中国史及びアジア近代史)

☆世界史 1b

選択世界史(1a/1b)では、1年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史1bでは、そのなかでも特に西洋史(前近代のイスラム史を含む)を扱うこととする。

☆倫理1

毎回、みなさんと広く哲学や思想と関係する文章を読んだ上で、みなさんが話し合いたい「問題」(身近なことから社会のことまで何でも結構です。例えば「人生の意味とは何だろうか？」「なぜ人を殺してはいけないのだろうか？」「勉強することに意味はあるのだろうか？」

「愛国心とは何だろうか？」などなど）を提起してもらい、それをめぐって全員で対話を行っていきます。教員はみなさんの対話を深めるために必要な哲学・思想や社会科学の基礎的な考え方や知識を適宜紹介しますが、授業は基本的にみなさんの対話中心で展開します。よって積極的な授業参加を求めますが、特別な予備知識は必要としません。気楽に参加し対話をしてください。なお 2026 年度は、福澤諭吉『学問のすすめ』（ちくま新書）、戸谷洋志『J ポップで考える哲学』（講談社文庫）を読みながら議論しました（受講者にはこうした書籍を購入してもらうので注意してください）。

＊授業の性質上、受講希望者が 30 名を超える時は抽選となることがあります。

☆政経1

この授業では国際政治の歴史と理論について学びます。どうしたら安定した平和な国際秩序が生まれるのかという問いには、これといった一つの答えがあるわけではありません。人類の歴史は戦争の歴史であると同時に、悲惨な戦争をどう防ぐかという人間の英知の積み重ねでもあります。この授業では 19 世紀以降の国際政治を歩み（戦後日本の政治・外交を含む）とそこから導き出された様々な国際政治理論について学んでいきます。

☆社会科演習 1

「英語で読む国際政治史」

授業内容　この授業では 19～20 世紀の国際政治の歴史について、英語文献を用いてゼミ形式で学びます。受講者の要望があれば時事問題を取り扱うことも可能です。

初回の授業で教材を配布し、日本語訳の分担等を決めます。2 回目以降の授業では、受講者は自分の担当部分の日本語訳等を発表し、受講者全員でその内容を検討していきます。2026 年度は Antony Best, Jussi M. Hanhimäki, Joseph A. Maiolo, and Kirsten E. Schulze (eds.), *International History of the Twentieth Century and Beyond* (Fourth edition) (London: Routledge, 2025)の国際政治史に関する 2 つの章を読みながら、国際関係を長い歴史的な視座から学んでいます。この授業を通じて学術的な英語文献を読むための「知力・体力」を身に付けながら、国際政治史のディープな面白さを味わってもらいたいと考えています。最初は読みやすいものから始めていく予定です。

授業形態　受講者の発表を中心としたゼミ形式＋担当者の講義。

評　　価　毎週提出する日本語訳と期末レポート、授業参加度に基づく。

注　　意　受講にあたって英語の得意・不得意は問いません。むしろ授業のために**毎回必ず予習してくることを重視**します。予習内容は日本語訳と重要な語句調べなどで、これが成績の大部分を占めます。授業内容について質問があれば、島田（高 3 主管室）を気軽に訪ねて下さい。

☆古文1

古文の読解力を鍛え、読むことの深みを知る。授業において、受け身で現代語訳をノートするだけでは読解力は身につかない。自ら辞書・文法書を駆使して原文に向き合い、どう読み、どう訳すのかを悩む時間の積み重ねが力となる。授業では、学生に一定の範囲を割り当て、その読解の結果を発表してもらい、それに対して討論し、訂正していくことを積み重ねていく。古語辞典を用意してもらうことになる（授業時に指示）。

☆古文 2

ある程度の文法知識・語彙力があることを前提とし、一つの作品（巻、章段）を通読する。一場面の現代語訳だけで終わらせるのではなく、なるべく全体を見通すことによって、その作品をより深く味わっていきたい。必要な準備等は初回授業時に指示する。

☆漢文 2

必修の授業ではあまり取り上げられない、物語や随筆、その他の散文作品など、やや長めの文章を辞書を引きながら読んでいく。多くの文章に触れ、漢文特有の語法や語句を確認することを通じて、漢文独特の表現を味わってほしい。漢和辞典を用意してもらうことになる(授業時に指示)。2年次に漢文1を履修している必要はない。

☆小論文1

何よりも小論文を実践的に書くことを目的にする。ただし、「書く」という行為には当然「読む」、「考える」という行為も含まれるわけで、無限定な形で書くわけではない。また小論文入試についても視野に入れた授業を行う予定である。

教材については、授業選択者と相談して決めるが、何よりも持続的に「書く」意志のある者が選択して欲しい。

☆物理1

1年生の必修物理で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱」、「波」、「電気」を中心に扱う。演示実験を行うので、考察していきたい。

☆物理 2

1 年生の必修物理、選択物理 1 で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱と気体」、「電気と磁気」、「原子」を中心に扱う。演示実験を行うので、考察していきたい。

☆化学1

教科課程における「化学基礎」のうち、1 年次の残りと、「化学」の一部を学ぶ。

「酸化還元反応」、酸化還元反応のひとつとして「電池や電気分解のしくみ」、「無機化学」、「有機化学」を学ぶ。無機化学では覚える内容が多く、有機化学では覚えたうえでの新しい概念の構築が必要となる。

全般を通して理論だけにおさまらない事実に学ぶ。そのため実験は多く、実験と座学を結びつけて考えていく必要がある。1年次の内容の上に立つカリキュラムである。随時内容を振り返るが、必修化学が振るわなかった者には努力をしてもらわないと厳しいものになる。

使用テキスト) 化学基礎、化学、ニューグローバル 化学＋化学基礎

☆化学 2

前半は、無機化学、有機化学を扱い、化学反応と、その理論に触れる。後半は、反応の速さと平衡を扱い、反応そのものについてより深く掘り下げていく。

ときに数学を用いながら進めていくがαコース選択者にもわかるようにその都度復習していく。化学①の範囲の復習として、実験を通して、実験結果をグラフ化し、客観的にレポートする基礎的な訓練をする。表計算ソフトによる実験データの記録や、データ解析も行う。

使用テキスト) 化学、ニューグローバル化学＋化学基礎、化学の新研究(三省堂)

☆生物1

1 年生における既習事項を基礎にして、DNA とタンパク質、呼吸や光合成等の代謝、DNA の働きと発生、人体のしくみ、植物のしくみ、生態と環境、生物進化などを映像などを交えながら学習する。「生物」の教科書と図説、セミナー生物を用いる。レポートと試験で評価する予定である。文系の者でも十分理解できる内容を授業展開する。文系希望者に加え、医歯薬系や生命系、理系進学希望者はぜひ生物 1 を履修してもらいたい。

☆生物 2

生物 1 の座学中心の授業に対して、本授業は実験や観察など体験型の学習で生物を学ぶ。校外学習として博物館や科学館等での実習も行う。実験の一例として、オワンクラゲ由来の緑色蛍光タンパク質を細菌に組み込む遺伝子組換え実験、身近な生物のタンパク質を比較する電気泳動実験、PCR 反応により遺伝子を複製しその違いを比較する実験、動物の解剖と組織標本の作製・染色、顕微鏡観察、クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験、植物組織の顕微鏡観察、DNA の抽出実験などを行う。主にレポートで評価する。大学にもつながる内容で授業を展開するが、文系の者でも十分理解できる内容としている。文系希望者に加え、医歯薬系や生命系、理系進学の者はぜひ履修してもらいたい。

☆地学1

1年生における内容をふまえて学習を進める。「地学基礎」に加え、「地学」の学習事項も扱う。主に気象分野(「地学基礎」と「地学」の内容)と、天文分野(「地学」の内容)を講義する予定である。

☆地学 2

本授業では「地学」「地学1」で学習したことを前提に、より自由度の高い学習を行う。校外学習を実施しそれで学んだことを発表などでアウトプットすることや、実験を行いレポートなどにまとめることを主軸としている。

もし理系大学への受験で地学を用いることを視野に入れている生徒が受講する場合は、別途対応できるよう検討する。

☆数学演習 1a

現代社会で数学がどのように利用されているのかを、暗号技術を中心にコンピュータを使って体験的に学びます。第一の目標は、現在広く使われている RSA 暗号という暗号システムを、実用レベルのセキュリティで作成することです。実社会で利用されている暗号のため、一部理解が難しい部分もあるかもしれませんが、その際は生成 AI を補助的に活用して学習を進めます。主な内容として、

・生成 AI の有用性と危険性を学ぶ。

身近な例として、Excel の定型作業を自動化するマクロ作成などを通じて、その能力を体感します。またファクトチェックの方法などについても触れたいと思います。

・RSA 暗号の仕組みを、数学的に理解する。

・プログラミング言語(Python または Risa/Asir)を使い、RSA 暗号を実装する。

(例:拡張ユークリッドの互除法、2 進数展開、素数判定など)

最終的には、300 桁にもおよぶ巨大な素数を生成し、本格的な暗号システムを完成させます。プログラミングの経験は問いませんが、その分野に興味があることが望ましいです。

☆数学演習 1b

3 年次αコース選択者を対象とし、大学入学共通テストレベルの問題演習を中心に授業を行い、より発展的な内容まで学習する。2 年次の数学の選択(α, β)は問わないが、2年次の数学β選択者の既習内容を前提として進める予定である。

☆情報 2

「情報 1」の学習内容をさらに発展させ、より本格的なプログラミングを学習します。

「情報 1」を履修していなくても、やる気があれば履修可能です。

プログラミングを学ぶことにより、コンピュータを使って何かを生み出すというクリエイティブな活動を行うことができるようになります。

また、様々なプログラムを設計し、自分の意図した通りに動くように修正するプロセスを通して、物事の手順を自ら考え、構造化する能力を身につけることも授業の目標です。

学期末課題に取り組むために、スマホではなく自宅にパソコンの作業環境があることが望ましいです。

☆中国語1

発音の基礎、日常会話、基本的な文法、簡単な作文ができるレベルまでを目標とする。授業を通して最新の中国の事情、さまざまな文化を紹介する。

☆中国語 2

中国語1（初級）に続いて中級レベルを学び、テキストで学習した「言葉」や「文法」などを「自分のもの」にすることを目的とする。授業中は文法のポイントを確認した上、聞き取り練習や作文・会話練習を行う。特定の場面を想定して、その場にふさわしい問いかけや受け答えが中国語でできるように指導し、中国語での表現力を高めていきたい。

☆ドイツ語1

ドイツ語に関する基礎知識を学び、それをもとにした情報の受信・発信能力の基礎を習得することを目的とする。英語等との比較も行いつつ、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」ことについての基礎的・実践的トレーニングを行なう。時間に余裕があればドイツ語圏の文化・社会事情も扱いたい。

☆ドイツ語 2

ドイツ語1や総合のドイツ語で学習した内容を踏まえつつ、ドイツ語での情報の受信・発信能力をさらに伸ばすことを目的とする。使用する Text を利用して「読む」「書く」「聞く」「話す」のそれぞれについての基礎的・総合的実践トレーニングを行う。また機会を見て使用 Text とは別の教材を用意し、ドイツ語圏の文化・社会事情にも触れる予定。進度等の事情が許せばドイツ語検定試験の問題なども扱い、卒業後のさらなるステップアップにも備えたい。

☆フランス語1

初心者が無理なく学習できることを目指す。文法を学ぶだけではなく、何回もフランス語を目にし、耳にすることで徐々にフランス語の文字や発音に慣れていけるようにする。さらに簡単な挨拶や自己紹介など日常会話に役立つ表現も紹介していく。語学用教科書やコピーを用いる予定。

☆フランス語 2

フランス語1で学んだことを復習するにとどまらず、新たな文法項目や会話表現も学んでいく。短い文の読み書きや簡単な会話を通じて、さらにフランス語に親しむことを目指す。フランス語圏の文化や社会事情などを紹介することもありうる。選択者からの希望があればフランス語で授業を行うことも可能。なお、授業中は教科書やコピーを用いる予定。

☆英会話1

Upper beginner to advanced level English students will improve their vocabulary, grammar, speaking and listening skills.（事前に希望を聞いて、クラス分けをすることがある。）

☆英語 2b

Upper intermediate and advanced level English students will use newspaper and magazine articles to form the basis of group discussions and essays. （事前に希望を聞いて、クラス分けをすることがある。）

体育・芸術

☆体育 1a

筋力トレーニングの基礎（方法、プログラム作成、栄養など）を学習しながら、筋力アップと体力づくりを目的とした授業を行う。経験者だけでなく、初心者も対象とし、授業の前半は講義、後半は実技という形で進めていく。人数を制限することがある。

☆体育 1b （定員:20 名）

様々な競技のルールを学習し、技術、戦術を習得しながら、試合を中心とした授業を行う。競技・内容は受講者が考え、準備する。人数が多い場合には、分割・抽選となることがある。

☆芸術1・2

○書道1・2 （書道1の定員:60 名）

書道1では、漢字の各書体の変遷を中国や日本の名跡から学ぶ。また、仮名の学習では平安時代の古筆を学ぶ。授業では墨汁は使わず磨墨をし、用具・用材は高校生に相応しいものを使用する（初回授業にて指示）。

書道2では、1学期は漢字五書体の古典の臨書作品制作を行い、2・3 学期は篆刻・少字数・漢字仮名交じりの書、そして生活の中の書式を学ぶ。

○音楽1・2 （音楽1の定員:35 名）

本授業では、弦楽器（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）のいずれかを選択して合奏を学ぶことができます。さらに今年度からは、自分の管楽器を持参できる生徒も履修が可能となり、より幅広いアンサンブルを体験できるようになりました。

弦楽器については、基礎を学ぶ事ができ、未経験者も歓迎しています。必要に応じて学校備品の楽器を貸与します。（履修人数によっては、1 台を複数人で使用する場合もあります。）また、音楽鑑賞や歌唱の活動にも取り組みます。演奏実技にとどまらず、音楽を聴き取り、考え、表現する力を多角的に育成していきます。

音楽2では、履修者の得意分野を考慮し、引き続き合奏中心の授業を行う。

○日本画1・2 （日本画1の定員:64 名）

日本画1では、おもに野菜、花、剥製などをモティーフにした静物画を制作する。岩絵の具と顔彩と色紙を用いて、基礎的な日本画の技法を習得する。

日本画2では、静物画の他に、風景制作、模写、篆刻を行う。岩絵の具、箔など本格的な日本画材料も使用し、より高度な絵画表現を学ぶ。

○西洋画1・2 （西洋画1の定員:30 名）

西洋画1では、油絵具の素材についてや、使い方について学び、数点の油彩画を制作する。美術鑑賞として美術館見学を行う。

西洋画2では、自由なテーマにより、自己の表現の可能性を探ると共に技術を学ぶ。1 学期は木炭デッサンと油絵の制作を行う。2 学期は下絵を発展させ油絵の制作を行う。

○工芸1・2 （工芸1の定員:30 名）

工芸では木材や金属等の実材の加工、デザインを通じ、素材について学び、自ら設計・デザイン、制作を行い、ものをつくることについて学ぶ。

工芸1では、基本的な素材の加工方法、設計・デザインなどを行う。

工芸2では、身近にあるもの（照明・食器など）の設計・デザイン、制作を行う。